



カケハシ・プロジェクト（米国）ユダヤ系米国人招へい第1陣 （B'nai B'rith International）の記録

1. プログラム概要

【目的】本プログラムでは、伝統的なユダヤ人コミュニティの相互扶助組織であるブネイ・ブリス・インターナショナル（B'nai B'rith International）が選出した参加者が、東京都と広島県を訪問し、ユダヤ人と日本の歴史を辿る体験を通して、日本と在米ユダヤ人コミュニティとの活発な交流や協力関係を促進し、日米関係を強化するとともに参加者同士のネットワーク強化を図ることを主目的として実施しました。

【参加者】ブネイ・ブリス・インターナショナル関係者 1 名
ブネイ・ブリス・インターナショナル選出の社会人 14 名 計 15 名

【訪問地】東京都、広島県

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

10月26日（木曜日） 【来日前（渡航前）オリエンテーション】事業目的・ミッション、日程説明、
渡航注意、新型コロナウイルス感染症対策等
来日までの指定期間 【動画視聴】講義「日本と国連」日本理解講義（Web Japan より選択）

■ 招へいプログラム：

10月31日（火曜日） 羽田空港より入国
11月1日（水曜日） 【表敬訪問】イスラエル大使館
次席（臨時大使） イスラエル・ストゥルロヴ氏
【視察】東京タワー
【表敬訪問】外務副大臣 辻 清人氏
11月2日（木曜日） 東京都から広島県へ移動
【視察】ホロコースト記念館及び御幸バイブルガーデン
【視察】福山市人権平和資料館
11月3日（金曜日） 【視察】厳島神社（宮島）
【文化体験】書道体験
講師：一般社団法人 My Japan 三村 理紗氏
11月4日（土曜日） 【視察・体験】「sokoiko! 広島ピースツアー」株式会社 mint
【視察】広島平和記念資料館
11月5日（日曜日） 広島県から東京都へ移動

【ワークショップ】 報告会準備（訪日成果のとりまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）

11月6日（月曜日） 【報告会】 訪日成果・帰国後の活動計画発表

【視察】 浅草（浅草寺、仲見世通り）

11月7日（火曜日） 羽田空港より出国

2. 記録写真

招へいプログラム



11月1日【表敬訪問】イスラエル大使館 次席（臨時大使） イスラエル・ストウルロヴ氏



11月1日【視察】東京タワー



11月1日【表敬訪問】外務副大臣 辻 清人氏



11月2日【視察】ホロコースト記念館及び御幸バイブルガーデン



11月2日【視察】福山市人権平和資料館



11月3日【視察】厳島神社（宮島）



11月3日【文化体験】書道体験



11月3日【文化体験】書道体験



11月4日【視察&体験】sokoiko! 広島ピースツアー(自転車)



11月4日【視察&体験】sokoiko! 広島ピースツアー(徒歩)



11月5日【ワークショップ】報告会準備



11月6日【報告会】成果報告



11月6日【報告会】記念撮影



11月6日【視察】浅草

2. 参加者の感想（抜粋）

◆ 社会人

広島で出会った人たちの視点や印象を聞いて、自分とは異なる側面からの考えに気づかされました。特に、日本人の目を通したホロコーストの認識や、広島の人たちの第二次世界大戦後の復興に対する考え方、戦前・戦後の社会の歴史的背景などを学ぶことができたことは大変印象的でした。

◆ 社会人

一番印象に残っているのは、ホロコースト記念館です。アンネ・フランクの父であるオットー・フランクに会い、この記念館を立ち上げたという理事長に会えたのは良い経験でした。この記念館はよく考えられて設立されていて、とても精度が高かったです。アンネ・フランクの家を訪れ、彼女が隠れていた部屋を完璧に再現しているのは素晴らしいと感じました。

また、宮島は素晴らしい場所でした。フェリーに乗って島を散策するのは楽しい経験でした。

◆ 社会人

最も印象的で大きな影響を受けたのは、広島で自転車に乗って巡ったピースツアーでした。素晴らしいツアーガイドの方でしたので、原爆が物理的にも精神的にも、街や国全体にどのような影響を与えたかを目の当たりし、感情を揺さぶられました。

3. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 視察先

米国在住のユダヤ系の皆様をお迎えし、日本でホロコーストについて伝えている当館の活動内容、展示意図、理念などを深く知りたいという思いを強く感じました。短い滞在時間でしたが、語られたご感想から、当館が願う「ホロコーストの出来事を通じて、次世代の子どもたちが平和について考えることの意義」を深く理解していただき、感謝の言葉を述べて下さったことをありがたく思いました。今回のご訪問を通して、私たちもさらに視野を広げて、平和のメッセージを伝えていきたいと思いました。

◆ 講師

参加者の方が、日本の好きなところや文化について、すごく魅力的に思っていることを知り、日本人としてとても嬉しく思いました。また、家業の筆作りについてお話させていただいた際には、歴史や伝統工芸に興味を持って下さり、初めて筆の感覚や書道の楽しさを感じていただき、とてもやりがいを感じることができました。

今回の交流を通じて、外国の方と触れ合う楽しさをより強く感じました。また、このような素晴らしい経験を学生や若い世代にも感じてほしいと考え、当日のお手伝いの方に来ていただくなど、交流の輪を広げることができました。私自身の学びにもなり、日本文化を後世に伝えていきたいという想いを新たに、より自分の言葉でも伝えられるよう、語学の勉強に励みたいと思います。

◆ 体験先ツアーガイド

2023 年 G7 サミットが開かれたことや、近年の世界情勢を鑑みて、広島への関心が高まっていると感じます。ユダヤ系という背景は中東での紛争、国内における意見の相違など、戦争や平和

に対して強い関心があることを感じました。実情をより深く感じていただくために、自身の家族の被爆体験を交えながら、広島を歴史を伝えさせていただきました。どの国、どの宗教、どの民族に属しようとも人間の共通する「普遍的な思い」は変わらないことを再認識しました。参加者のお人柄にも支えてもらい、楽しくガイドをさせていただきました。

5. 参加者の対外発信

 B'nai B'rith InternationalさんはJICE's International Exchange Programsさんと日本にいます。 5日 · 🌐 Just landed in Tokyo! Participants in the B'nai B'rith-JICE International Exchange Programs joint Kakehashi Project arrived in Japan for a mission to help build and strengthen ties between the U.S. and Japan – and give our leaders the opportunity to see Japan through a Jewish lens. 🇺🇸 🇯🇵 #BBInJapan2023 #BnaiBrithKakehashi2023	 we learned all about Japanese calligraphy and had the chance to do it ourselves! this symbol is a combination of two characters which mean hand and shaking hands. When combined it means friendship.
2023 年 10 月 31 日 (Facebook) ブネイ・ブリス・インターナショナル所属の参加者全員が、JICE の国際交流プログラムであるカケハシ・プロジェクトに参加するために、今、東京に到着しました。私たちの使命は日本と米国の絆を確立し、より強固にすることであり、私たちのリーダー達にユダヤ人の視点を通して日本という国を知るチャンスを提供することです。	2023 年 11 月 3 日 (Instagram 等) 習字について多くを学び、実際に自分たちで挑戦する機会がありました。 この漢字は、右手を表す漢字(「又」)が重なっていて、組み合わせることで握手をしているという意味になり、「友」を表しています。

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表

訪問地：東京都、広島県 全2グループが発表

	
【訪日中の学び】 日本の文化と平和の重要性について学びました。 【プログラムでの経験を将来のキャリアにどのように生かすか】 異文化間の親和性を築いていきます。核軍縮、及び原爆についてより多くを学び、それを広めていきます。 【アクション・プラン】 ① 米全土でユダヤ系の若者たちによる寄付金集めなどによってホロコースト記念館を支援していきます。 ② 在日イスラエル大使館と協力し、日米のユダヤ系の若者のネットワークを構築します。 ③ 日本人の原爆体験に関する巡回展を、米国内のシナゴーク（ユダヤ教徒の集会所）やコミュニティセンターで開催します。 アクション・プランは各関連団体との話し合いで決まり次第、実施する予定です。	【訪日中の学び】 平和と平和主義、非暴力と核不拡散の強い文化について学びました。 【プログラムでの経験を将来のキャリアにどのように生かすか】 職場などで友好的関係と相互理解を促進するために、異なる背景を持つ人々を理解し、親密な関係を築いていきたいです。 【アクション・プラン】 私たちは、2023年12月31日までに、各都市の“One Table”^(注)の支援を受けて、自分たちの住むコミュニティで私たちの経験を共有するために、安息日のディナーを日本食で提供することを企画します。 （注）One Table：20～30代の若い世代がユダヤ教の伝統的な安息日（シャバット）の夕食を共に楽しむために、食事会の集まりやコミュニティ形成を推奨している非営利の団体

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）